



# 図書だより

NO.6

12月になり寒い冬がやってきました。期末テストが終わると、すぐ冬休みです。クリスマスに大晦日、元旦など大忙しの年末年始。疲れた体に、ほっと一息。あったかいお部屋であったかいお茶を飲みながら本を片手に休憩しませんか？本に夢中になって大掃除の手を止めてしまうかもしれませんが、そんな時間も必要だと思います。今年一年は、コロナの影響で思うように学校や遊びにも行けずたくさんの制限もありましたが、2020年皆さんと一緒にしっかりと締めくくりたいと思っています。みなさんにとって次の2021年、本とともに充実した一年でありますように。



## 新しい本

	タイトル	著者	出版者
1	日没	桐野夏生	岩波書店
2	解くだけで身につくおもてなし英語検定	デイビッド・セイン	祥伝社
3	糸	林民夫	幻冬舎文庫
4	悪いものが、来ませんように	芦沢央	角川文庫
5	スキマワラシ	恩田陸	集英社
6	夜明けのすべて	瀬尾まいこ	水鈴社
7	ミライヨウム	水沢秋生	小学館
8	1日10分のしあわせ	朝井リョウ 他	双葉文庫
9	推し、燃ゆ	宇佐美りん	河出書房新社
10	私の中にいる	黒澤いづみ	講談社
11	ドブ女の逆襲	ふくれな	宝島社

他にもたくさん入っています。HPを確認してください。

## ぜひ読んでほしいおすすめ2冊！！

羊と鋼の森 / 宮下 奈都 (文春文庫)

ゆるされている。世界と調和している。それがどんなに素晴らしいことか。言葉で伝えきれないなら、音で表せるようになればいい。

「才能があるから生きていくんじゃない。そんなもの、あったって、なかったって、生きていくんだ。あるのかないのかわからない。そんなものにふりわされるのはごめんだ。もっと確かなものを、この手で探り当てていくしかない。(本文より)」

ピアノの調律に魅せられた一人の青年。彼が調律師として、人として成長する姿を温かく静謐な筆致で綴った、祝福に満ちた長編小説。高校生の時、偶然ピアノ調律師の板鳥と出会って以来、調律に魅せられた外村は、念願の調律師として働き始める。ひたすら音と向き合い、人と向き合う外村。個性豊かな先輩たちや双子の姉妹に囲まれながら、調律の森へと深く分け入っていく。一人の青年が成長する姿を温かく静謐な筆致で描いた感動作。

ライ麦畑でつかまえて / J.D.サリンジャー (白水Uブックス)

アメリカの小説家、J.D.サリンジャーの代表作です。1951年に出版されてから翻訳され、その累積発行部数は6千万部を超えています。

「永遠の青春小説」と名高い本作は、4度目の学校を退学となった16歳の主人公が故郷のニューヨークを3日間放浪する物語。主人公のホールデンは、酒とたばこ好きないわゆる不良で喧嘩が絶えず、頭は女遊びのことばかり。とにかく大人や社会に不満がいっぱいで、周りを見下す皮肉めいた語り口によってストーリーは展開していきます。そんなホールデンも、妹のフィービーや死んだ弟のアリーのことはとても大切に思っている純粋な少年。粹がってしまうだけで、本当は自分に自信のないホールデンの人間らしさは、多くの若者の共感を生みました。

フィービーが終盤に「兄さんは結局、何になりたいの？」と問いかけるシーンはもっとも有名で、将来に悩む高校生の心にきっと届くと思います。2003年には村上春樹による新訳版「キャッチー・イン・ザ・ライ」も発売されています。現代的な文体のほうが読みやすい人はこちらを読んでみてください。